

会議資料




丸亀市協働実行計画

～市民の力が活かせる協働のまち・
いきいきとした個性豊かで活力あふれるまち～

協働（きょうどう）とは

異なる複数の主体が、それぞれの責任と役割分担に基づき、互いの違いや特性を尊重しながら、同じ目標の達成に向けて対等な立場で協力し合うことです。丸亀市のまちづくりは、この協働の考え方にともづいて、市民やコミュニティ、市民団体等とともに進められます。

◎3つの「きょうどう」

共同	協同	協働
		
(同じ場所で一緒に作業する。)	同じような立場の者（似通った思いを持つ者）が、同じ目標の達成に向けて、役割を分担して作業する。	立場・思いの異なる複数の団体が、同じ目標の達成に向けて、互いを尊重しながら作業する。

2022年4月
丸亀市

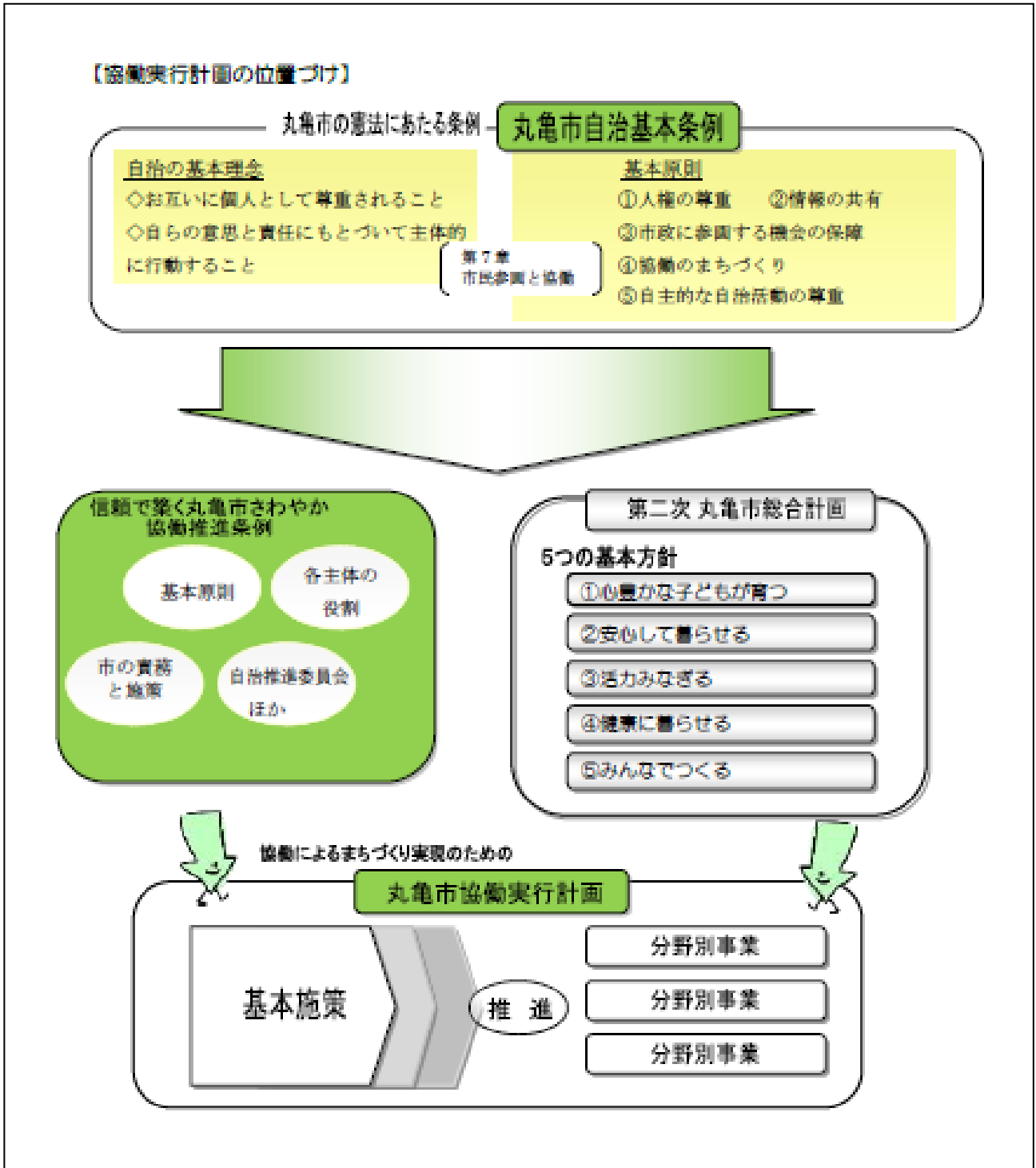


2022～2024年度

(1) 丸亀市協働実行計画

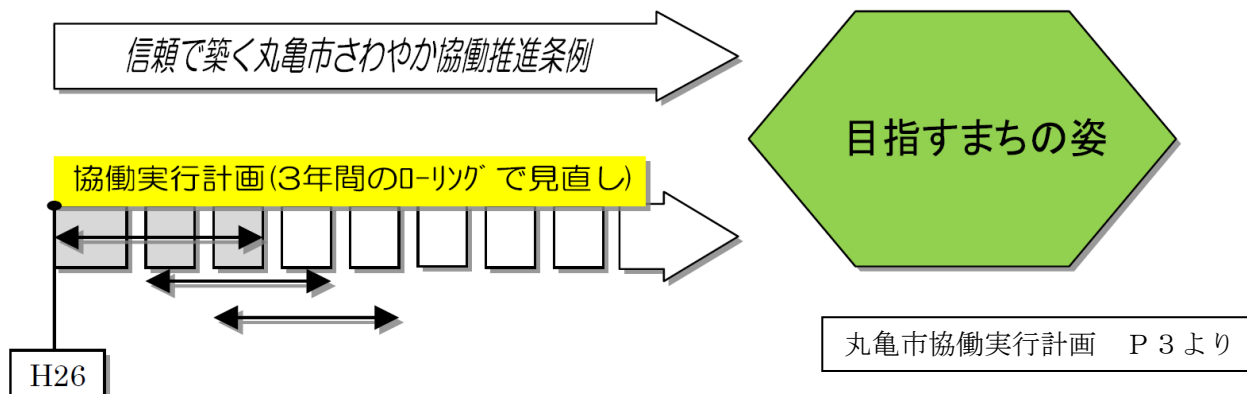
平成 26 年 4 月（見直しは平成 27 年 4 月 1 日の見直し以降、毎年度実施）。

「信頼で築く丸亀市さわやか協働推進条例」にもとづいて、丸亀市の市民活動 及び 協働をさらに推進するとともに、次のステップへと向かう行動指針として策定しました。



(2) 計画の期間

本計画の期間は3年間とし、毎年度、必要な見直しを行います。



(3) 目指すまちの姿

協働推進条例の前文には、本市の協働の基本的な理念が掲げられています。本計画では、条例の理念に則り、目指すまちの姿を以下のとおりとします。

市民の力が活かせる協働のまち・

いきいきとした個性豊かで活力あふれるまち



《参 考》 「信頼で築く丸亀市さわやか協働推進条例」前文より抜粋

地方分権や少子高齢化の進展などによる社会環境の変化は、私たちの生活意識や価値観までも大きく変えようとしています。このようなときにこそ、人と人の触れ合いを大切にしながら、「自分たちの暮らすまちは自分たちの責任で」との思いを、市民一人ひとりが認識し、さらに暮らしやすいまちにするために、自分自身に何ができるかを問い直すことからまちづくりは始まります。

住みよい地域社会は、そこに暮らす人々の相互理解と信頼に基づいた連携と協力によって築かれるものであります。そして、それらを育みながら、地域の様々な課題に対して、市民、コミュニティ、市民団体、事業者、市が、各々の役割と責務を認識し、特性を活かし、多彩に活動を展開していくことがまちづくりには求められます。

自主的で自立した多様な主体が、対等な立場で、またよきパートナーとして、ともにまちづくりに取り組んでいくことを明確にすることにより、市民の力が活かせる協働のまち、いきいきとした個性豊かで活力あふれるまち「丸亀」の実現を目指し、信頼で築く丸亀市さわやか協働推進条例を制定します。

丸亀市協働実行計画 P 8 より

(4) 基本方針

協働推進条例の第 3 条には、協働促進に係る基本原則が掲げられています。本計画では、条例の基本原則に則り、目指すまちの姿の実現に向けた基本方針を以下のとおりとします。

①自主性・自発性の尊重

市民活動や協働事業を実施するにあたっては、活動を行う各主体の「自主性と自発性」を尊重します。また、これらの活動等への参加は、阻害・干渉・強制されるものではありません。

②情報の共有と連携

透明性の高い、開かれた関係性をつくるため、積極的に情報を公開・共有しながら、まちづくりの企画段階からの参画（参加）など、各主体が連携した取組を進めます。

③相互信頼のもとの対等な協力

お互いの立場の違いを理解し、信頼を育みながら、対等なパートナーとして、多様化する地域の課題や社会的課題に協力して対応します。

丸亀市協働実行計画 P 8 より

(5) 基本施策

協働推進条例第 8 条及び第 9 条にもとづいて、基本施策を次のとおりとし、さらに具体の取組を示す個別施策を設定します。

基本施策	個別施策
(1) 情報共有、啓発活動	① 情報の共有
	② 情報発信・啓発
(2) 人材の育成	① 学習機会の提供
	② 活動・交流の場の提供
	③ 市民活動団体の育成
(3) 活動基盤の整備	① 活動拠点の整備・充実
	② 相談窓口の設置
	③ 担い手の育成・支援
(4) 交流・連携の推進	① ネットワークの構築
	② 参入機会の提供
	③ 大学等との交流促進

丸亀市協働実行計画 P 9 より

施策の体系図

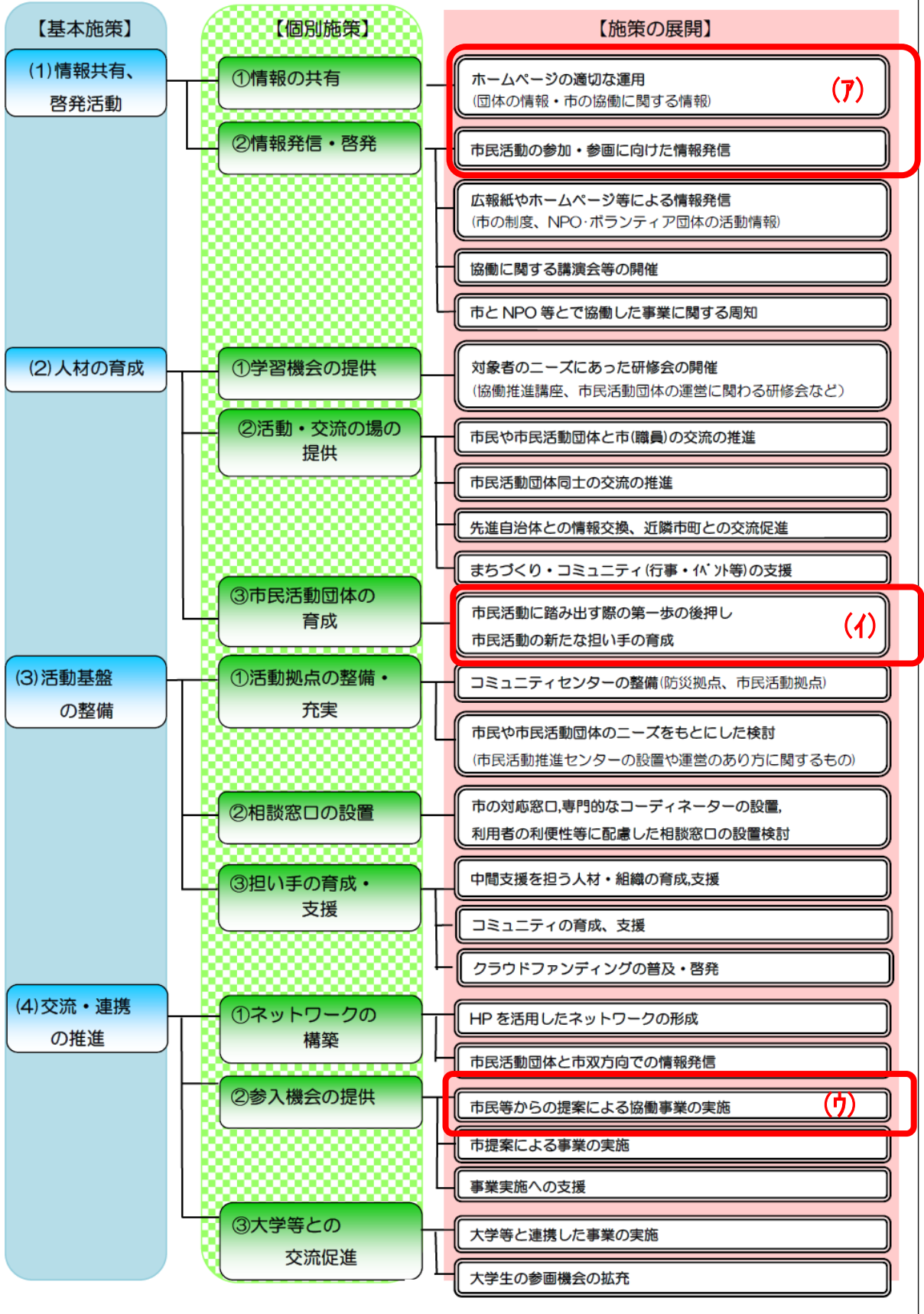
将来像…
基本方針…

～市民の力が活かせるまち・いきいきとした個性豊かで活力あふれるまち～

自主性・自発性の尊重

情報の共有と連携

相互信頼のもとでの対等な協力



(6) 進行管理

(1) 実施状況の把握

市は、毎年度、計画の見直しにあたり、協働の推進に係る施策の妥当性や分野別事業の進捗状況を把握し、その結果を丸亀市自治推進委員会に報告します。

●参考：丸亀市自治基本条例 第21条第1項 自治推進委員会の設置

市民参画及び協働の適正かつ円滑な推進及び市民による自治の進展を図ることを目的として、丸亀市自治推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(7) 取組の状況

(ア) ホームページの適切な運用、市民活動の参加・参画に向けた情報発信

>> 市民交流活動センター「マルタス」ホームページで集約して発信（Instagram、Facebook、LINE等）



(イ) 市民活動に踏み出す際の第一歩の後押し、市民活動の新たな担い手の育成

>> ステップアップ補助事業（令和3年度は以下の8件）

事業名	概要
第46回丸亀お城村マルタス・オンラインステージ	毎年5月に丸亀お城まつりと同時開催で丸亀お城村を開催していたが、新型コロナウイルスの影響により中止を検討するなか、このような状況であっても様々な生活様式や新しい時代への対応を模索し、今までにない事業を立案していく必要がある。 そこでお城村を完全に中止するのではなく、丸亀城前に新しく開館したマルタスにおいて無観客による小規模オンラインステージを開催することで、ステージ出演予定であった団体・グループの活動の機会を設けることが、地域の活力を取り戻すきっかけとなると考える。
玉井正明氏講演会「なつかしき笛や太鼓」上映会	長年、玉井正明先生は、学校の教師、教授として、学生たちの思いを心に秘め、日夜献身的に支えた実績は、知れば知るほど私たちに感動を与えてくれている。今も現役で名誉教授として活躍され、子どもたちの諸問題を中心に執筆活動を行っている。 玉井先生が小手島中学校でのバレーボールに情熱を注いだエピソードを含め、昭和から平成、令和へと子どもや学生たちが成長している中で思いを語っていただきたい。当時の映写機で16mmフィルムを上映する。
講演会「子どもの性といのちを守るために、私たち大人ができること」	子ども安全ネットかがわ代表仙頭真希子氏は、支援学校や幼稚園、保育所などの教育現場でも教員などによる性暴力に苦しむ子どもたちと親を支援する中、保護者や子どもが周囲から孤立し、苦しんでいると気づき、心置きなく相談できる窓口が必要と考え、保育・教育施設等での性被害相談窓口「話してみよう」を開設し、警察への相談など事件への対応や被害にあった子どもへのケアの方法などを電話やLINE、メールなどを通じて無料で行っており、教員から性被害にあった事件で被害者の代理人を務めることもある。 そのような中、私たち大人が子どもを守るために何が必要か、何ができるのかを考える講演会にしていきたい。
ヘルマンハーブ愛好会クリスマスコンサートINマルタス	新型コロナウイルスが猛威をふるった昨今、人との交流や活動の自粛を余儀なくされ、知らず知らずストレスになっている現状。そんな生活から抜け出し新しい広がりを作りたい。ヘルマンハーブ愛好会として活動の周知や日頃の練習の成果発表、また、市民交流活動センターマルタスを有効に活用して、団体主催のクリスマスコンサートを開催し、地域の活性化のひとつになれる演奏活動を行いたい。 年齢や持っているハンディを問わず共生できる人づくり、まちづくりへと繋げられるような活動にしていくことが課題。
SDGs ジャック in マルタス	2015年9月25日国連サミットにて採択された、2016年から2030年までに取り組む「SDGs（持続可能な開発目標）」について、ようやく日本においても認知度があがってきたところである。しかしながらまだまだ何をしたらいいのかわからないという市民が多いため、地元企業の取組事例、ゲーム体験、ワークショップ等をつうじて市民ひとりひとりが自分ごととして取り組めるような市民学習の場とする。
城下町の物産展	新型コロナウイルス感染拡大により県外への旅行が困難になり、各地域での観光業が影響を受けている中で、他の地域と連携し絆を深めてお互いが活性化していくことを目的としている。また、地元の商店街内の店舗を活用して、物産展を企画・実施する。
ひろ街でエール飯	「ひろえば街が好きになる運動」を通じて、丸亀市中心市街地周辺の清掃活動を実施するとともに、地元の飲食店が出店するテイクアウトイベントを開催する。新型コロナウイルス感

	染拡大の影響により外食自粛が相次ぐ中、地元グルメの魅力を発信していくことを目的としている。
食品ロスマーケット	丸亀市内を中心とした飲食店の人たちに食品ロスが発生しているか調査し、公募をかけて食品ロスを抱えている飲食店に出店してもらい、マーケットを開催する。

(ウ) 市民等からの提案による協働事業の実施

>> 提案型協働事業（令和3年度は以下の2件）

事業名	提案団体	委託金額	事業概要	市の役割
丸亀城ボードゲーム制作事業	さぬきファミリーゲーム倶楽部	500,000円	2020年に市内外の様々なみなさんと開発をすすめてきた、「丸亀城を舞台にしたボードゲーム」製品化。全国初の地元の観光素材を活用したボードゲームとして、丸亀城だけではなく丸亀市そのものをPRする新たなツールとして配布していきたい。また市内小中学校へ寄贈し、市民団体のメンバーと一緒に遊ぶことによって、丸亀の愛着を高めるとともに観光教育の推進を図ること、石垣復興プロジェクトとの連動を目標としている。	ボードゲームの監修、PR、配布
本島笠島・空き家活用プロジェクト	香川歴史的建造物保存活用会議	500,000円	居住や滞在など活用の視点から地域や空き家建物を紹介し、香川県内を中心に広く参加者を募る。空き家見学会を開催し、居住等の実現を試みると共に、居住等に関心ある人たちの傾向や課題を把握し、空き家活用の検討ほか今後の展開につなげる。	関係団体への協力要請などの支援、関連する担当課への協力連携の呼びかけ

丸亀城ボードゲーム製作事業

1 協働の主体

- さぬきファミリーゲーム倶楽部
- 産業観光課

2 事業概要

2020年に市内外の様々なみなさまと開発をすすめてきた「丸亀城を舞台にしたボードゲーム」製品化。全国初の地元の観光素材を活用したボードゲームとして、丸亀城だけではなく丸亀市そのものをPRする新たなツールとして配布していきたい。また市内小中学校へ寄贈し、市民団体のメンバーと一緒に遊ぶことによって、丸亀の愛着を高めるとともに観光教育の推進を図ることと、石垣修復プロジェクトとの連動を目標としている。



3 事業を行うこととなった背景（きっかけ）

- ①県外外の丸亀城及び石垣崩落の認知度が低い。
- ②コロナ禍で丸亀市全体のPRの機会が減り、観光分野の低迷が続いている。
- ③おうち時間が増え、大人・子ども問わず自宅で過ごす時間が多くなっている。

4 役割の分担

市の役割	市民等の役割
ボードゲームの監修、PR、配布	ボードゲームの製作、PR、配布

5 取組の状況

- 6月 パッケージデザインなどの調整
- 7～9月 部品等調達、発注
- 10月 完成…ゲームルール動画及びプレイ動画撮影、チラシ、ポスター制作配付
- 11月 マルタスにて「完成&報告会」開催
- 12月 ふるさと納税返礼品等開始

6 事業の効果

- ・団体と市担当課との連携により、学校等幅広い場所において活用できた。
- ・ふるさと納税返礼品として全国に向けて提供することにより、丸亀市全体の効果的な情報発信となった。

7 実施年度 令和3年度